



春期に九州北西部を西へ渡るハイタカと東へ渡るサシバ・ハチクマ

伊関文隆

〒819-0373 福岡県福岡市西区周船寺159-1-2-102 E-mail: f.iseki@theia.ocn.ne.jp

はじめに

秋期に紀伊半島, 四国, 九州, 南西諸島へと南下していくサシバ *Butastur indicus* の渡りは, 日本野鳥の会によって1986年にはじめられた全国調査により大幅に解明された(武田 1989). しかしながら, 春期のタカ類の渡りについては未だにわかっていないことが多く, サシバについても例外ではない. 春期は秋期の経路を逆に渡ることが示唆され, 経路上に位置する高知市では8,000羽以上の記録があるが, 情報が断片的である(日本野鳥の会編集室 1988, 井上 1997, 黒岩ほか 1998). 一方, 韓国から対馬へ渡る経路が確認されているが(山田 1997, 井上 1998b), 対馬以降の行き先は不明である.

サシバに次ぐ秋期の代表的な渡り鳥であるハチクマ *Pernis apivorus* については, 山陽地方, 九州北部, 長崎県五島列島, さらに西へと渡ることが知られている(武田 1989, 井上 1998a). しかし, 春期の五島列島の記録は著者の知る限り存在せず, 秋期とは逆に渡るかどうかは不明である. 一方, 春期に韓国から対馬へ渡る経路が確認されている(山田 1997, 井上 1998b). このほか, 広島では2,000羽あまり, 大分では400羽以上の東への渡りが観察されている(山田 1998b, 富高・山本 2002).

春期のハイタカ属 *Accipiter* spp. については, 対馬では1,000羽以上が北西から西へ, 愛媛県佐田岬では2,000羽以上が西へ渡るのが観察されている(井上 1993, 山田 1998a)ものの, ハイタカ *A. nisus* の渡りについては, ほとんど解明されていない. 2001年春, 九州北西部に位置する立石山にて計286羽のハイタカの西への渡りが観察された(酒井 2001a, b, c). 著者はこの記録に興味を持ち, 2001年秋期以降同所にて観察を続けた結果, 春期はおもにハイタカ・サシバ・ハチクマの渡りがみられることが判明したのでここに報告する.

2003年 9月27日 受理

キーワード: 九州, サシバ, ハイタカ, ハチクマ, 渡り

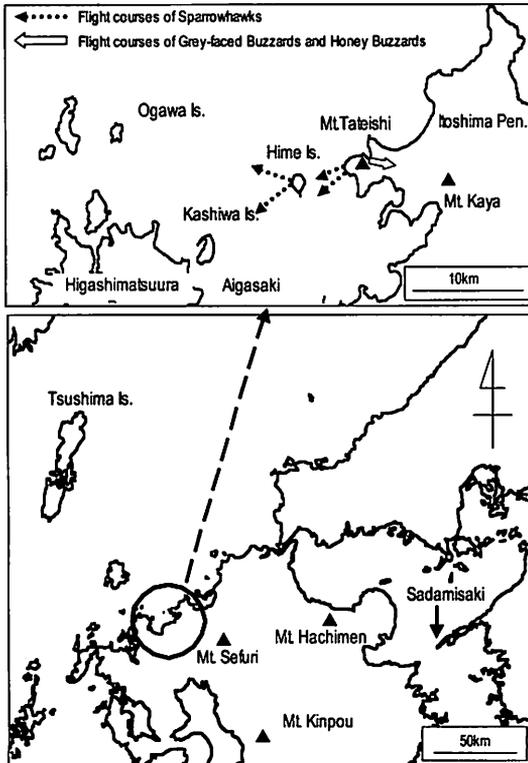


図 1. 調査地およびハイタカ、サシバ、ハチクマの移動経路

Fig. 1. Study area and flight courses of Sparrowhawks, Grey-faced Buzzards and Oriental Honey Buzzards.

調査地および調査方法

第一調査地は、糸島半島の西端に位置する福岡県志摩町の立石山(33° 34'N, 130° 06'E, 標高209.6m)の稜線部である(図 1)。山の東側は内陸部に続き、北から西回りに南までは海に面している。調査地点の視界は360° 開けているが、北西部は山の斜面に遮られ目線より下方は観察することができない。北西には壱岐、対馬、朝鮮半島が位置し、調査地点から直接みることができないが、少し移動した場所からは視界が良ければ壱岐がみえる。

調査は前年の出現傾向を参考に、2003年 2月 7日から 5月28日まで不定期に59日(2月に5日間, 3月に20日間, 4月に16日間, 5月に18日間)行なった。3月27日は調査を行なったが南西風が強く、のべ35羽のうち10羽のハイタカが西へ飛翔した後に戻ってきており、戻りを確認できていない個体も戻りを見落とした可能性が高いため集計を行なわなかった。調査時間は 7時から16時を目安にしたが、タカ類の出現状況・天気の変化・著者の都合により時間を特定しなかった。朝から雨が降った日は 3月22日を除き調査を行なわなかった。

調査は調査地点の周辺(半径約 1km以内)を通過する個体を観察することにより行なった。個体の発見はおもに肉眼で行ない、識別には8.5倍の双眼鏡と20~60倍の望遠鏡を使用し、

カメラで撮影した写真も利用した。

出現した時間・飛去方向・同時出現数を記録し、可能な場合は性別・年齢を識別し、色や特徴もできるだけ観察した。また、調査開始時と終了時には天気・風向・風速・気温・視界を記録し、気象が大きく変化したことに気がつけば、その時にも記録をとった。

第二調査地は立石山の西南西約 4kmに位置する姫島の西端の路上(33° 34'N, 130° 02'E)で、2003年 3月29日に調査を行なった。東は島の中央に位置する山(標高186.7m)がみえ、北から西回りに南までは海が広がり視界は開けている。調査方法は立石山で行なった方法とほぼ同じであるが、姫島ではハイタカをできるだけ長い時間、望遠鏡により観察し、飛去方向をできるだけ正確に判断できるように行なった。

結果および考察

1. ハイタカ

1) 渡りの特徴

2月17日から5月20日のあいだの45日間で合計1,782羽を確認した。少なくとも3か月以上渡りが続いたことになる。渡りのピークは3月下旬から4月上旬で、3月21日から4月10日のあいだで全体の53%が記録された(図2)。愛媛県佐田岬でのハイタカ属の渡りは3月23日から4月3日に多く、2月下旬から4月下旬の長期にわたるとされており(井上 1993)、この記録とほぼ一致した。

単独で渡ることが多いが、最大12羽が同時に帆翔しているのを目撃した(図3)。

7時から16時まで観察した日のうち、出現数の多かった4日間の結果では、10時台にピークがみられ、午前中に多く渡る傾向があった(図4)。そのほかの7時から16時まで観察し10羽以上出現した日(6日間)ではピーク時間が8時から11時にみられ、午前中に多く渡る傾向があった。愛媛県佐田岬のハイタカ属では10時から15時に集中するとされており(井上 1993)、立石山の記録と異なった。

年齢を識別できなかった個体は約32%であったが、成鳥と1年目の若鳥(以下、若鳥とする)の両方がみられ、渡りの前半は成鳥が、後半は若鳥が多かった(図2)。

飛翔時、そのうが明らかに膨らんでいる個体が少なくとも68個体みられた。ハイタカは渡りの途中に採食を行なうことが知られているが(志村 1988)、今回もそれを確認することができた。

進行方向に対して逆風が強かった3月27日(南西風、風力4~6)は、風が直にあたる場所では、はばたいてもほとんど進めてなかったが、滑翔を行なったり尾根の反対側の風が直接あ

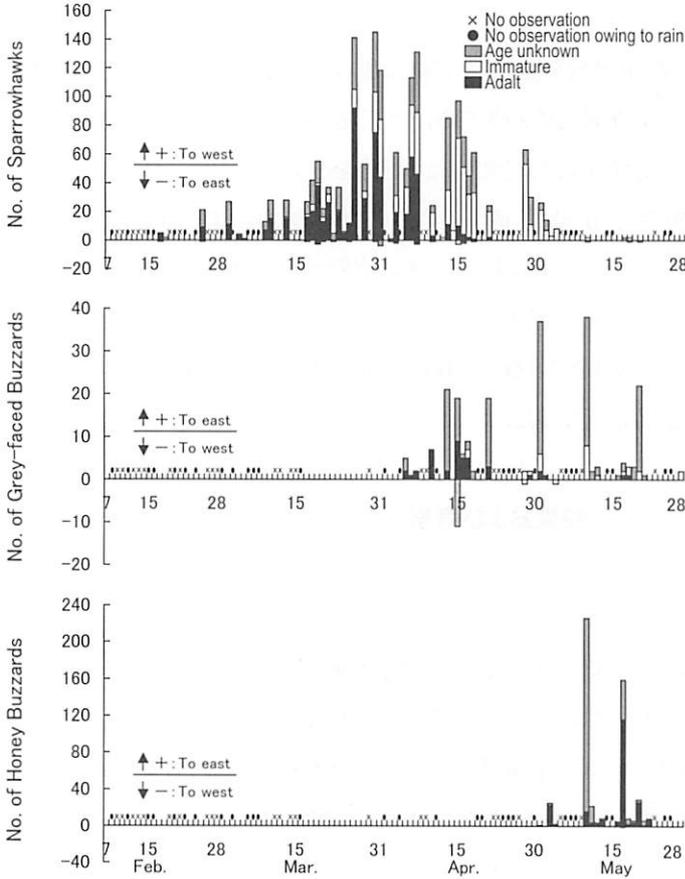


図 2. ハイタカ、サシバ、ハチクマの渡り個体数の時期的な変化

Fig. 2. Number of migrating Sparrowhawks, Grey-faced Buzzards and Oriental Honey Buzzards at Mt. Tateishi during the spring migration period.

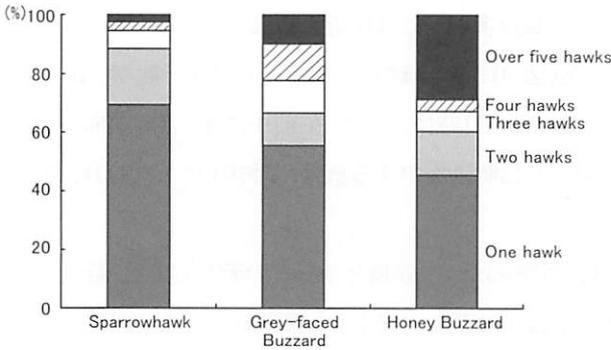


図 3. ハイタカ、サシバ、ハチクマの渡り時の群れの大きさの比較

Fig. 3. The ratio of flock sizes of migrating Sparrowhawks, Grey-faced Buzzards and Oriental Honey Buzzards at Mt. Tateishi.

たらないところを飛翔して立石山の西端付近までは移動していた. このうちの 3割弱は海上へは飛び出さず, 戻ることが観察された.

3月10日には羽をすぼめて上昇と下降をくり返す, ディスプレーと考えられる飛翔を観察した. この個体は西へ渡っていったが, 渡りの途中のこのような飛翔は, まれな例と考えられる.

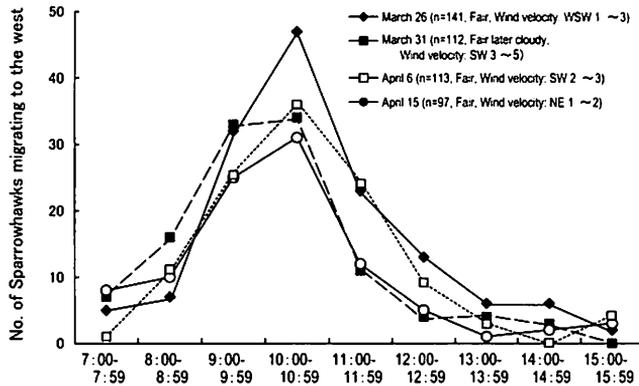


図 4. ハイタカの渡り個体数の時刻別変化

Fig. 4. Daily pattern of migration of Sparrowhawks for 4 days at Mt. Tateishi.

2) 渡り経路

西寄りの方向(以下, 西とする)へ1,752羽, 東寄りの方向(以下, 東とする)へ30羽の飛翔を観察した。東へ飛翔したものは林内へ入ったり, 下方をみまわしながら行き先が定まらず飛翔している様に見えるものが多かったため, 採食のために一度西へ飛翔したものが戻ってきたと考えられる。しかし, 7羽は東へ一直線に飛翔しており, これが渡りか否かは不明である。

任意に観察した西へ移動した47羽は, 北西の山の斜面に遮られ, すぐにみえなくなることが11%あったが, 85%は海上へ飛び出し, 西南西に見える姫島方向に62%, 姫島よりやや南の方角に位置する神集(かしわ)島方向に13%, 小川島方向に6%飛び去った(図1)。飛来方向は, おもに東に位置する可也山方向であったが, 東寄りの広範囲からの飛来がみられた。

2003年3月29日に行なった姫島での調査時は, 南西寄りの風向き(風力1)であった8時15分から10時30分位までは北西に位置する小川島の方向に飛翔するものが多く(11羽中9羽), 10時30分以降の北西寄りの風向き(風力2)の時は南西に位置する神集島や相賀崎方向に飛翔するものが多かった(6羽中6羽)。

今回確認された西へ渡るハイタカは, 飛翔方向と位置関係から本州以東で繁殖する個体とは考えにくく, また, 九州では繁殖が確認されていないことから(森岡ほか1995), 大陸で繁殖を行なう個体であることが推測される。対馬からハイタカ属1,000羽以上が朝鮮半島の方向にあたる北西から西に飛翔するのが確認されており(山田1998a), 立石山を通過したものが対馬を通過する可能性があり, 今後, 関連を調査していく必要がある。

同属のオオタカは3月25日から5月13日までに10羽出現し, 西へ飛翔した。ツミは4月16日から5月21日までに東へ9羽, 西へ1羽飛翔して行った。種まで識別できずにハイタカ属の一種とまで識別できたものは西へ24羽, 東へ4羽飛翔した。

2. サシバ

1) 渡りの特徴

4月5日から5月28日のあいだの25日間に合計225羽を確認した。調査終了の5月28日にも出現があったため、これ以降も渡りが続いた可能性がある(図2)。高知県では3月下旬もしくは4月上旬がピークで、3月下旬から5月下旬まで観察されている(黒岩ほか1998)。立石山では高知県よりも出現が遅く、ピークははっきりせず、異なる部分が多かった。

単独で渡るものも多いものの、ハイタカに比べ複数で渡ることが多く、最大20羽で渡るところがみられた(図3)。

識別できたものでは渡りの前半は成鳥が、後半は若鳥が多かった(図2)。識別した条件が調査期間中は一定であるため、識別できていない69%の個体についても同様の傾向がみられる可能性が高く、渡りの前半は成鳥が、後半は若鳥が多いといえる。

そのうが目立って膨らんだ個体は観察できなかった。

2) 渡り経路

東へ212羽、西へ13羽の飛翔を観察できた。西へ飛翔した13羽のうち11羽はまとめて行動しており、少数だが渡りの可能性があった。韓国から対馬へ南下する経路が確認されており(山田1997, 井上1998b)、対馬南部からの行き先ははっきりしていないが、そのまま南下した場合、九州北西部にて上陸するのが妥当である。飛来方向が特定できていないが、立石山における東への渡りは、この経路に関係している可能性がある。

3. ハチクマ

1) 渡りの特徴

5月1日から5月22日の間の14日間に合計510羽を確認した。最大出現数は5月10日の226羽で、そのうち97羽が海上を帯状にまとめて渡っており、大規模な集団をつくることが伺えた。富高・山本(2002)は、九州北東部におけるハチクマの春の渡りは4月上旬から6月上旬であり、そのピークは5月中旬としているが、今回の結果はその範囲に入っていた。

出現数の多かった5月10日と17日は、それぞれ11時台、9時台にピークがみられた。その他の日はデータ数が少なく、午後に小さなピークがみられることもあり、経時変化についてははっきりしなかった。

年齢を識別できなかった個体が57%であったが、今回識別できたハチクマはすべて成鳥であり、若鳥が混ざっていない可能性がある。

ハイタカと異なり群れで渡ることが多く、その規模も大きかった(図 3)。

そのうが目立って膨らんだ個体は観察できなかった。

2) 渡り経路

東へ509羽、西へ1羽の飛翔を観察できた。西へ飛翔した個体は北西の斜面を越え見えなくなったため、海上へ渡ったかどうかは不明である。東へ飛翔したものは可也山を中心に東寄りの広範囲に飛び去った。サシバ同様、韓国から対馬へ南下することが確認されており(山田 1997, 井上 1998b), 立石山の東への渡りはこの経路に関係している可能性がある。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、田村耕作氏、山本勝氏には文献・資料を多数提供していただいた。酒井理生氏には現地の渡りについてご教示いただき、論文作成に賛成していただいた。川口敏氏には論文の内容や書き方について貴重な助言をいただいた。2002年春には井上勝巳、山田一太、西村裕美の各氏に調査の代行をしていただいたほか、情報をいただき、渡りの傾向をつかむことができた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

要 約

2003年2月7日から5月28日の59日に、九州北西部に位置する立石山にて渡り観察を行ない、以下の結果を得た。

1. ハイタカが2月中旬から5月中旬に西へ1,700羽以上、サシバが4月上旬から5月下旬に東へ200羽以上、ハチクマが5月上旬から下旬に東へ500羽以上渡った。
2. ハイタカは午前中に渡る傾向があった。
3. ハイタカの渡りのピークは3月下旬から4月上旬にみられた。
4. ハイタカは3か月以上、少なくともサシバは2か月、ハチクマは3週間程度渡りが続いた。
5. 渡りの時にはハチクマはサシバよりも群れをつくる傾向が強く、ハイタカは単独で渡ることが多かった。

引用文献

- 井上勝巳. 1993. 春期に西へ渡るハイタカ属3種. *Strix* 12: 85-92.
- 井上勝巳. 1998a. 長崎県五島列島・福江島のハチクマの渡り. *Strix* 16: 109-120.
- 井上勝巳. 1998b. 春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ. *Strix* 16: 171-174.
- 井上賢三郎. 1997. 九州北西部における春のサシバの渡り. *Strix* 15: 130-132.
- 黒岩哲夫・西村俊彦・橋本裕子・吉本海男. 1998. 高知市における春期のサシバの渡り. *Strix* 16: 121-126.
- 日本野鳥の会編集室. 1988. あなたの疑問に答えますQ&A. 野鳥(506): 23-24.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 酒井理生. 2001a. 鳥信. 日本野鳥の会福岡支部報 野鳥だより・ふくおか(258): 7.
- 酒井理生. 2001b. 鳥信. 日本野鳥の会福岡支部報 野鳥だより・ふくおか(259): 6.
- 酒井理生. 2001c. 鳥信. 日本野鳥の会福岡支部報 野鳥だより・ふくおか(260): 5.

- 志村英雄. 1988. ワシとタカの渡る道. 野鳥(506): 14-15.
- 武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix 8: 35-123.
- 富高裕二・山本兆司. 2002. 九州北東部における春のハチクマの渡り. Strix 20: 107-115.
- 山田一太. 1997. 朝鮮半島から南下するハチクマとサシバ. Birder11(10): 46-52.
- 山田一太. 1998a. 春期のハイタカ属の渡り日韓ルート1998. Birder12(9): 38-43.
- 山田一太. 1998b. 西日本(韓国含む)におけるハチクマの渡り. 全国アカハラダカ(ハチクマ・サシバ)の渡りシンポジウム研究発表資料編: 11-18. 日本野鳥の会長崎県支部, 佐世保市.

Spring migration of Sparrowhawks, Grey-faced Buzzards and Oriental Honey Buzzards in northwestern Kyushu

Fumitaka Iseki

159-1-2-102 Susenji, Nishi-ku, Fukuoka, Fukuoka 819-0373, Japan

Sparrowhawks *Accipiter nisus*, Grey-faced Buzzards *Butastur indicus* and Oriental Honey Buzzards *Pernis apivorus ptilorhynchus* were observed at Mount Tateishi in northwestern Kyushu for 59 days from 7 February to 28 May 2003. The following results summarise these observations.

1. The amount of over 1,700 Sparrowhawks were observed migrating from the east to the west. And the amount of over 200 Grey-faced Buzzards and over 500 Oriental Honey Buzzards were observed migrating from the west to the east.
2. Sparrowhawks tend to migrate before noon.
3. The peak migration days for Sparrowhawks were during late March to early April.
4. Sparrowhawks migrated for three months and Grey-faced Buzzards migrated for nearly two months while Oriental Honey Buzzards migrated for three weeks.
5. Oriental Honey Buzzards tended to make flocks more than Grey-faced Buzzards on migration. Sparrowhawks tended not to make flocks.

Key words: *Accipiter nisus*, *Butastur indicus*, *Eurasian Sparrowhawk*, *Grey-faced Buzzard*, *Kyushu*, *migration*, *Oriental Honey Buzzard*, *Pernis apivorus*